

常設展「岡本太郎 生きることは遊ぶこと」

Taro Okamoto : Living is Playing

2025 年 10 月 28 日(火)～2026 年 3 月 28 日(日)

「生きるということ自体、遊びではないか。われわれはひたすらに、生きるために生きている。」*

何事に対しても全身全霊で挑み続けた岡本太郎。絵を描くこと、彫刻を彫ること、文章を書くこと、写真を撮ること、ピアノを弾くこと、スキーやテニスに熱中すること、旅すること……。ジャンルを超えた岡本の芸術活動と生き方の根底には「遊び」の精神が息づいていました。

岡本は、20 代を過ごしたパリにて世界のあらゆる文化や思想に触れ、パリ大学にてマルセル・モースのもと民族学を学んだ経験を通じて、人間の文化・生活における「遊び」について考えるようになります。例えば「まつり」を宗教や政治、芸術すべてを集約した真剣な「遊び」と捉え、旅行や遊学は「自由に動くことは遊びの最たるものの一つ」*であると述べています。



《森の掟》1950 年



岡本太郎ポートレート、河童祭りにて(1982 年)

岡本の言う「遊び」とは、単なる娯楽や余暇ではなく、自身の全存在を賭けて勝負するものでもありました。岡本が手がけた多くの作品にはその精神が表れていると言えます。

本展では、岡本太郎の人生と芸術における「遊び」をキーワードに、当館のコレクションから岡本太郎ファン必見の代表作を中心にご紹介します。

*「芸術と遊び——危機の接点」『原色の呪文』(1968 年、文藝春秋社)より

《開催概要》

会 期:2025 年 10 月 28 日(火)～2026 年 3 月 29 日(日)

会 場:川崎市岡本太郎美術館 常設展示室

休 館 日:月曜日(11 月 3 日、11 月 24 日、1 月 12 日、2 月 23 日を除く)、11 月 4 日(火)、11 月 25 日(火)、12 月 29 日(月)～1 月 3 日(土)、1 月 13 日(火)、2 月 12 日(木)、2 月 24 日(火)、ほか臨時休館あり

観 覧 料:10 月 28 日(火)～1 月 30 日(金) 常設展のみ開催 一般 500(400)円、高・大学生・65 歳以上 300(240)円
1 月 31 日(土)～3 月 29 日(日) 企画展とのセット料金 一般 700(560)円、高・大学生・65 歳以上 500(400)円
※()内は 20 名以上の団体料金、中学生以下無料

主 催:川崎市岡本太郎美術館

同 時 開 催 企画展「第 29 回岡本太郎現代芸術賞(TARO 賞)」(2026 年 1 月 31 日(土)～3 月 29 日(日))

※開催期間等、変更になる場合がございます。最新の情報は当館ホームページにてお知らせいたします。

※本展は写真撮影可能ですが、一部撮影不可の資料がございます。

(動画撮影、フラッシュ撮影、三脚・自撮り棒・ジンバル等の器材の使用は不可)

展示室休室前 最後の常設展！

川崎市岡本太郎美術館は、施設・設備等改修工事のため、令和 8(2026)年 3 月 30 日から令和 11(2029)年 3 月末までの期間、館内展示室での展覧会の開催を休止する予定です。

本展が岡本太郎の代表作を一堂にご覧いただける休室前最後の機会となります。特に絵画のコレクションはしばらく見納めとなります。ぜひご鑑賞ください。

PRESS RELEASE



みどころ

★岡本太郎の「遊び」に迫る！

生きていること自体が「遊び」であると捉えた岡本太郎。

本展では岡本太郎の生涯を振り返りながら、作品や言葉を通して岡本の人生における「遊び」について紹介します。

★岡本太郎美術館の代表作品が大集合！

岡本太郎は絵画、彫刻、ドローイング、インダストリアルデザインなど、ジャンルを超えて多彩な作品を生み出しました。本展では、当館収蔵のコレクションから、必見の代表作を中心に紹介します。



《傷ましき腕》1936(1949)年



《夜》1947 年



《重工業》1949 年



《千手》1965 年



《ホ》1970 年

★「タローマン」の奇獣たちのモデルに出会える展覧会！

8 月 22 日、映画「大長編 タローマン万博大爆発」が全国ロードショーされました。

本展では、映画に登場するでたらめでべらぼうなキャラクターたちのモデルとなった岡本太郎作品も多数展示予定。

「タローマン」生誕の地をお楽しみください。（※本展示内にタローマンはいません）



©2025『大長編 タローマン 万博大爆発』製作委員会



PRESS RELEASE



関連イベント

ワンポイントトーク

担当学芸員が常設展示の展示解説を行います。
みて、きいて。展覧会をいっそうお楽しみください！
※開催日時は後日ホームページにてご案内します。



ギャラリートークの様子

主な出品作品

岡本太郎作品：油彩、彫刻、岡本太郎撮影写真、収集品、他 約 100 点(予定)
※会期中、一部作品の入れ替えを予定しています。



《遊ぶ子》1954 年



《若い時計台》1966 年



《若い太陽の顔》1969 年



《水差し男爵》1977 年



《夢の鳥》1977 年



《縄文人》1982 年

★広報用画像をお貸出ししています。ご希望の媒体様は、当館広報宛にお問合せください。

《お問い合わせ》

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：加藤、佐藤 広報担当：山内(pr@taromuseum.jp)
〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枡形 7-1-5 生田緑地内
TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966 <https://www.taromuseum.jp>

